

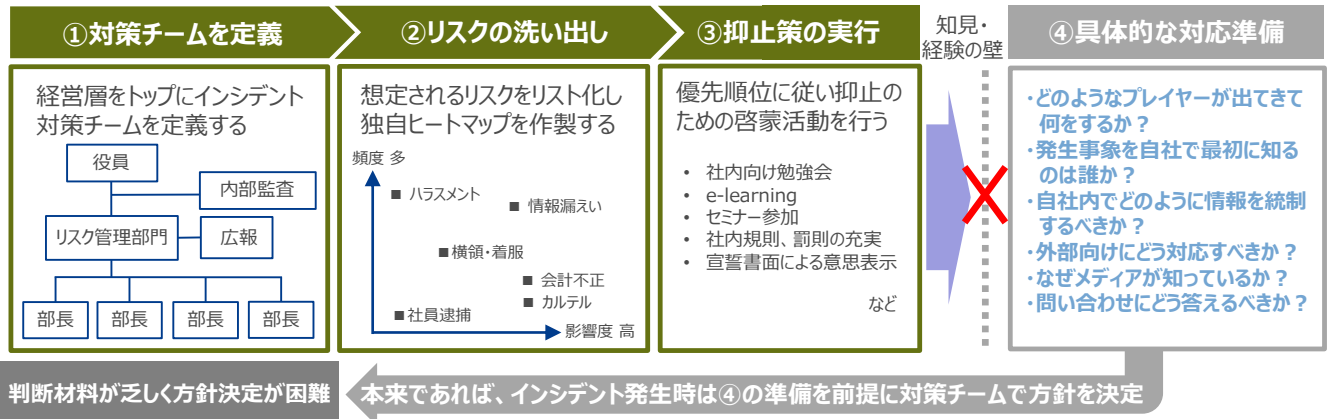
# クライシスコミュニケーション支援サービス

多数の不正調査対応で得たインシデント発生メカニズムに関する知見と現場対応の経験を用いて、平時の体制・ルールの整備と有事の情報発信までをワンストップでご支援いたします。

## 代表的な課題

### ■ 想定されるリスクが実際に顕在化した際のシミュレーションができない

多くの企業におけるリスクマネジメントはおおむね下記①から③の流れで実施されていますが、インシデント対応経験が無いために、想定されるリスクがインシデントとして顕在化した際の④具体的な対応準備が事前に整っていないケースがほとんどです。そのため、発生したインシデントに対する対応が後手に回り、追加の大規模なレピュテーション低下を招く結果となります。



### ■ 有事の広報対応マニュアルが形骸化している

効果的かつ迅速な対応が求められる局面で、以下のような問題からマニュアルが機能しないケースがあります。

- ✓ 必要事項が欠落している、もしくは余計な記載が多過ぎる
- ✓ 重要な決定に掛かる基準が曖昧であり、マニュアル参照者の行動に迷いが生じる
- ✓ 事前準備が必要な対応内容が記載されているが、そもそも事前準備ができていない
- ✓ 他部門との連携（Webサイトのニュースリリース掲載に掛かる対応業務フローなど）が確立されていない
- ✓ 作成以来、何年も更新・見直しされておらず、企業の実態に則していない

## 当社サービス提供イメージ

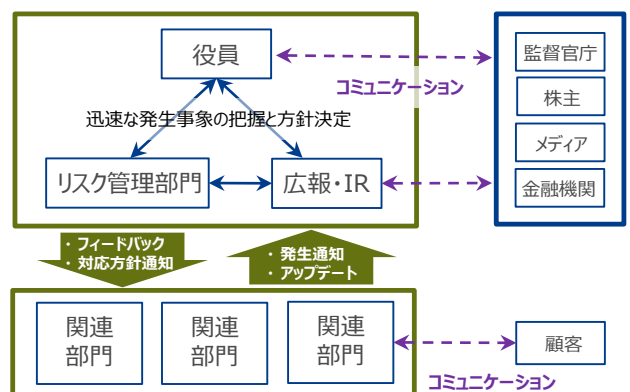
### ■ リスクの顕在化を前提とした内部情報統制の確立

これまでの豊富な不正調査・インシデント対応の経験から、実際の発生事象を基に社内の情報統制を確立します。

- ✓ ケーススタディによるナレッジ共有
- ✓ インシデントの早期発見を促す仕組み
- ✓ 経営層への迅速なエスカレーション体制
- ✓ 想定外ルートからの情報漏えい抑止など

### ■ 有事広報対応マニュアルの見直し

キーセクターである広報部門は、有事の際は社外向けの対応に忙殺され十分機能しないため、最小限で最大の効果を生むマニュアルが必要です。このマニュアル作成をご支援いたします。



クライシスコミュニケーション体制イメージ